



# 野球用のバット材としてダケカンバを利用できるか？ — 民有林におけるダケカンバ林の分布特性と資源量推計 —

道総研 林業試験場 森林経営部 経営グループ 大野泰之

## 研究の背景・目的

道内の広葉樹資源が増えつつある中、近年、ダケカンバの野球用バッドへの利用など、広葉樹の新たなニーズが生まれつつあり、実用化にあたって資源の安定供給が求められています（道広葉樹資源利用WG）。しかし、天然生広葉樹については、ニーズに対応した資源量や分布状況等に関する情報が限られています。そこで、本発表では民有林におけるダケカンバの資源量を推計したので報告します。

## 研究の内容・成果

### ダケカンバ林の推定面積

ダケカンバ林は全道に分布しますが（図1）、民有林における森林の推定面積は振興局間で大きな違いが認められました。

面積が大：後志、渡島、上川  
// 小：十勝、石狩、根室

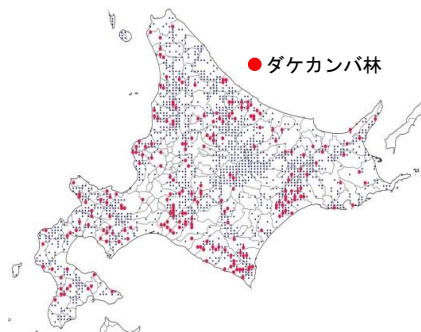


図1 ダケカンバ林の分布

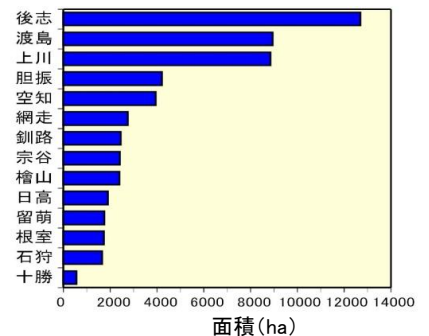


図2 ダケカンバ林の推定面積 (民有林)

### 振興局・標高・胸高直径別の推定本数

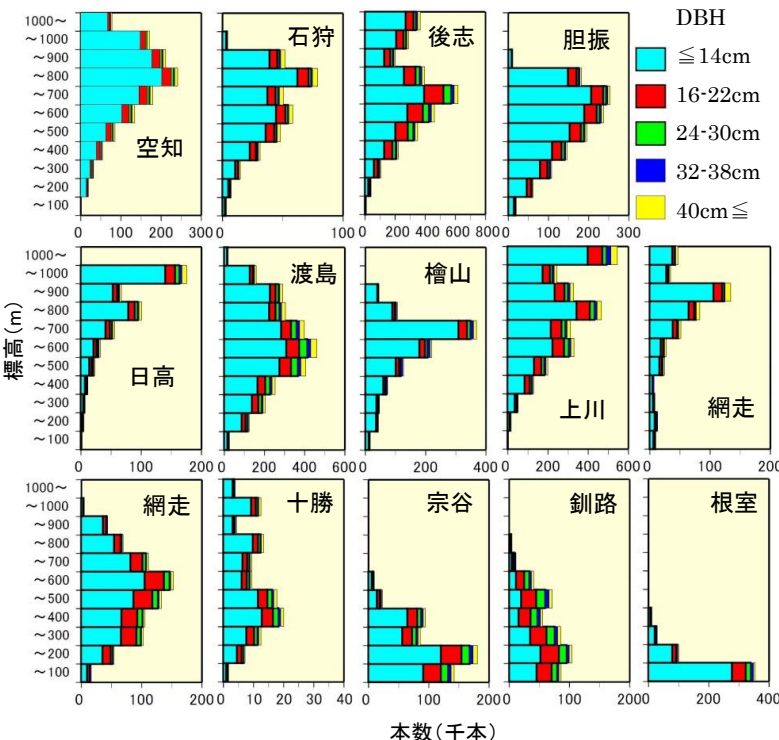


図3 ダケカンバ林の胸高直径 (DBH) 別の推定本数

ダケカンバ本数は標高に沿って変化していましたが、異なる2つのパターンが認められました（図3）。

標高とともに減少 ▶ 宗谷、釧路、根室  
ある標高にピーク ▶ その他の地域

バット用原木を採取しやすい低標高域の民有林を対象とした場合、その資源は宗谷、釧路、渡島、根室地域で多いと推定されました（図4）。

### 低標高域(300m以下)におけるDBH28cm以上のダケカンバ本数

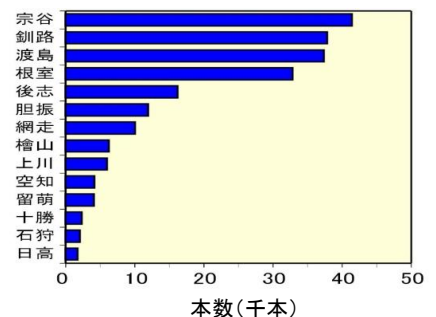


図4 DBH28cm以上のダケカンバの推定本数

## 今後の展開

多地点の現地調査データとセンシング技術を組み合わせ、天然生広葉樹の資源把握技術を高度化します。